

**2024年3月期 第2四半期**  
**決算説明会資料**  
(決算短信補足資料)

[2023年11月15日開催]

**SMC株式会社**

# 2024年3月期 第2四半期 決算説明会

2023年11月15日

SMC株式会社

代表取締役社長 高田 芳樹

Supporting Automation



## 2024年3月期第2四半期決算サマリー

製造業の自動化・省力化需要は底堅く、円安によるプラスはあったものの、半導体向け・中華圏の需要低迷の影響を受け、減収減益。

### <業種別動向>

半導体・電機は、引続き停滞。自動車は生産台数は回復したが、設備投資は伸び悩み。EV投資は欧米を中心に活発。工作機械は調整局面が継続。

### <エリア別動向>

半導体需要低迷により、日本、北米、アジアは低水準で推移。中華圏は、ソーラーなど一部は堅調だが、全体としては低迷。欧州は比較的堅調。

### <株主還元>

1株当たり450円、総額290億円の間配当を決議  
上限350億円の自己株取得を決議  
(取得期間：2023年11月～2024年3月)

(単位：億円)

	22/2Q 実績		23/2Q 実績		前年同期比 (22/2Q vs 23/2Q)	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	4,215		3,935		-279	-6.6%
売上原価	2,093	49.7%	2,057	52.3%	-36	-1.7%
売上総利益	2,121	50.3%	1,878	47.7%	-243	-11.5%
販売管理費	785	18.6%	827	21.0%	41	5.3%
営業利益	1,336	31.7%	1,051	26.7%	-285	-21.3%
経常利益	1,807	42.9%	1,346	34.2%	-460	-25.5%
当期純利益	1,330	31.6%	947	24.1%	-383	-28.8%
期中平均為替レート						
ドル	134.06		141.06		+7.00	5.2%
ユーロ	138.81		153.44		+14.63	10.5%
人民元	19.89		19.74		-0.15	-0.8%
減価償却費	121		150		29	23.8%
研究開発費	135		150		14	10.5%

# 2024年3月期ガイダンス



通期予想は変更なし。為替前提を変更。

(億円)

## <業種別動向>

半導体関連は、回復時期が2024年中盤以降に後ろ倒し。自動車関連は、EV関連投資が各地域で活発化。

## <エリア別動向>

日本：半導体は一部で底打ち感が見られるが、本格的回復は来期以降。自動車・工作機械は伸び悩み。

北米：日本と同様の状況。EV関連投資は活発だが、半導体の本格的回復は来期以降。

中華圏：ソーラー等一部産業は伸びているが、2次電池・自動車・工作機械等は低迷が継続。欧米の輸出制限によるリスク回避のため、自国生産品を優先する動きあり。

アジア：自動車関連は堅調だが、半導体関連の回復に遅れ。

欧州：環境規制もあり、EV関連投資が活発。シェアアップ、多角化を図る。

	22年度 通期実績	23年度 通期 ガイダンス	23年度		23年度 上期実績	上期進捗率	下期計画 (差引)
			上期	下期			
売上高	8,247	8,070	3,870	4,200	3,935	101.7%	4,135
売上総利益	4,211	4,020	1,900	2,120	1,878	98.9%	2,142
営業利益	2,582	2,330	1,090	1,240	1,051	96.4%	1,279
経常利益	3,059	2,530	1,180	1,350	1,346	114.1%	1,184
当期利益	2,246	1,830	850	980	947	111.5%	883

期中平均レート

	期中平均レート		通期為替 レート前提	
ドル円	135.56	130.00	141.06	145.00
ユーロ円	141.05	145.00	153.44	154.00
人民元円	19.75	19.00	19.74	19.80

# 2023年度施策と進捗



## 2023年度施策

### 1. 販売数量増加・シェア拡大

- ・販売量拡大・生産量拡大を通じたコストダウン推進
- ・生産・業務プロセスの透明化を通じた合理化
- ・戦略をグローバルに統一し、効率的に成果を上げる

### 2. IT導入による合理化、グローバル人材活用

- ・生産DX導入による生産性向上
- ・透明化された業務プロセスを元に、担い手を多様化
- ・グループ会社の人的資産を有効活用

### 3. 営業体制の整備

- ・外勤営業の生産性向上、代理店との連携
- ・営業内勤業務の合理化
- ・グローバル契約による顧客との関係強化

### 4. 販売量を増やすための営業戦略

- ・エンドユーザーとセットメーカーの両面からアプローチ
- ・非空圧製品の拡販、未開拓業種・用途に拡大
- ・CO2削減ソリューション提案

### 5. 販売量拡大を支える兵站の整備

- ・売上高1兆円に対応可能な供給能力
- ・部材調達力向上
- ・顧客要望を反映したアジャイルな製品開発・生産対応

### 6. BCP体制構築

- ・生産の複数拠点化、部材の複数購買
- ・開発の複数拠点化、海外技術センターの機能拡充
- ・データセキュリティ、データバックアップ

## 進捗

### 1. 販売数量増加・シェア拡大

- 需要低迷により一時的に販売数量・シェアとも伸び悩み

### 2. 営業戦略

- 電力・CO2削減ソリューション提案
- 生産設備の少エネ、省エネ機器への切替、低圧化
- 非空圧製品の拡販、未開拓業種の開拓
- 新製品の開発・発売（増圧弁、フローコントローラ等）

### 3. BCP体制構築

- 生産の複数拠点化（ベトナム、中国）
- 開発拠点の機能拡充  
（柏の葉キャンパス新技術センター、各国TCの拡充）
- サプライヤーの開拓（部材の複数社購買）

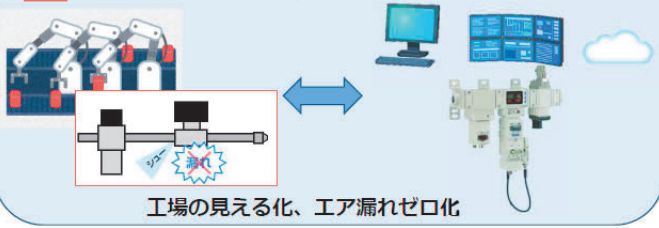
### 4. グローバル人材の活用

- 「SMCグループ内転勤制度」の運用を開始

# 空気圧機器の電力削減効果



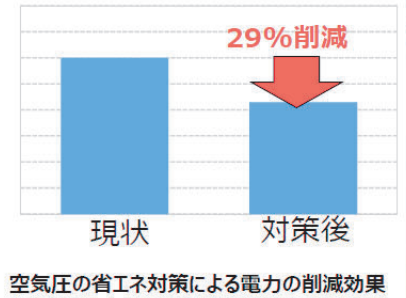
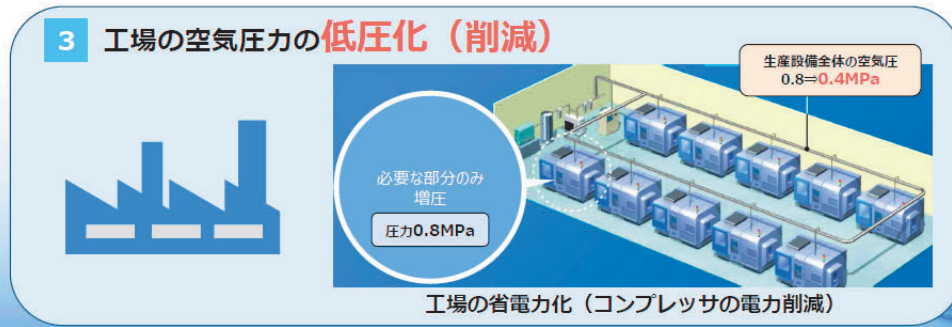
## 1 生産設備の少エネ



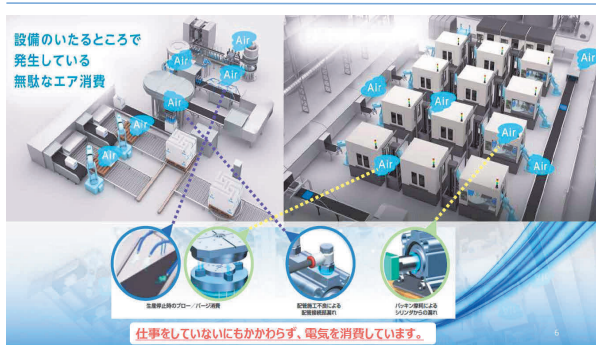
## 2 省エネ機器への切替え



## 3 工場の空気圧力の低圧化（削減）



# 生産設備の少エネ - AMS・エア漏れ可視化技術



## SMCが開発したエア漏れ可視化技術

空気圧配管内で、蛍光溶液(人にも機器にも無害)を霧状に噴霧して充満させ、漏れた場所から染み出した蛍光溶液にブラックライトを当てること、微小な量でも漏れの発生箇所を目視で特定できる。

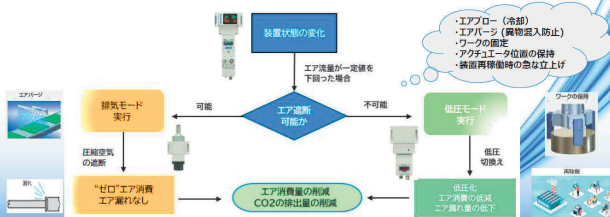
- ・空気以外の流体(水など)の配管でも使用可能。
- ・作業者のノウハウ等を必要とせず、簡単に漏れがある場所を特定できる。
- ・通常の階段程度の暗さで検知できる。
- ・小さな漏れも、痕跡が残りやすく、見落としが少ないのが特徴。

## Air Management System - 省エネ



### 生産設備の待機中に圧縮空気の消費を低減

生産設備の待機状態を認識し、自動で低圧に切替える事でエア消費を低減します。  
例) 設備稼働時の圧力 0.5MPa ⇒ 設備待機時の圧力 0.2MPaに切替える事で、50%のエア削減が可能

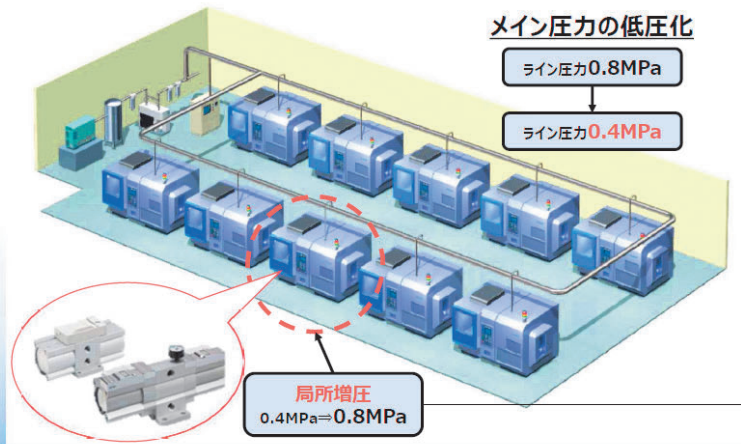


# 工場の空気圧力の低圧化



## 例) コンプレッサの電力

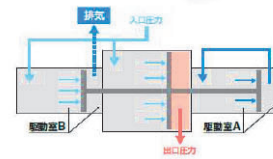
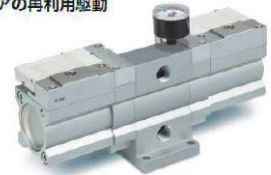
省エネ：工場全体のエア圧を下げ、大きな力が必要な箇所のみ局所増圧  
⇒コンプレッサの負荷低減（電力削減）



## 増圧弁 VBA-X3145

CO<sub>2</sub>排出量  
(送気消費量)  
**40%  
削減**

排気エアの再利用駆動



排気エアを  
再利用して  
駆動

増圧弁は、  
排気エア（今まで捨てていたエア）も再利用して  
駆動します

# 新製品紹介 弾性フィンガ



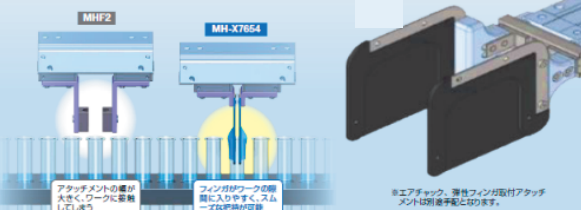
世界各国の営業から寄せられた、お客様の要望をもとに開発した新製品。

従来の「つかむ」グリッパは、爪が開閉する形で動作するため、整列しているワークをつかむのに適していなかったが、「弾性フィンガ」は、つかむ部分がゴムの幕のようにワークを包み込むため、形の違うワークを段取り替え無しで連続してつかむことが可能。

## 弾性フィンガ

ゴムシートフィンガにより  
不定形ワークを把持可能

■ 狭ピッチで並んだワークの把持が可能



New  
RoHS

## ワーク把持例



# 多角化とリンケージについて



## 多角化

あらゆるネットワーク・機会を利用し、様々なユーザー層、産業、装置へアプローチし、新規顧客を開拓  
→収益源の多様化、安定化を図る



植物プラント  
(農業)



ワイン・日本酒  
クラフトビール製造



酪農・搾乳



チーズ製造



粉体・集じん  
薬品・ファインケミカル  
(化学プロセス)

## リンケージ

情報、資源を最大限に活用し、互いに結び付け（リンケージ）、国内・海外・同業種・異業種を問わず、複数のユーザーを点と点で結び、面として様々な角度からアプローチ

# 研究開発体制の強化



## 柏の葉キャンパス新技術センター(仮称)を建設

- ・優れた開発環境を整え、生産性の向上と優秀な人材の確保につなげる。
- ・お客様、グループ各社の技術者、大学の研究者などとの交流を通じて、新たなイノベーションを生み出す。
- ・BCPの点でも高い機能を持つ拠点とする。

## 世界各国の技術センターを拡充

グローバルなお客様の需要に応える供給体制とテクニカルサポート体制を充実すべく、各国の技術センターを拡充する。



所在地	千葉県柏市若柴
概要	5階建て建物 3棟
敷地面積	42,794㎡
建築面積	29,407㎡
延床面積	85,320㎡
総投資額	1,200億円
従業員数	1,300名
着工	2023年12月
完成予定	2025年8月

柏の葉キャンパス新技術センター  
完成予想図

# グローバル人材の活用について



## SMCグループ内転勤制度の運用開始

2026年度売上高1兆円の達成、その後の更なるSMCグループの発展のために、SMCグループ各社で活躍している優秀な人材が、会社の枠を超えて、「グローバルに活躍できる態勢」をスピード感をもって構築していく必要があり、2023年度より、新たに「SMCグループ内転勤制度」の運用を開始した。

海外グループ会社の優秀な人材が、日本で勤務する経験をもとに視野を広げ、帰国後の更なる活躍につなげていくための仕組みであり、同時にSMC日本の社員には、海外の優秀な人材との切磋琢磨により、刺激を受け、グローバルに活躍する事へのチャレンジを促す。

### <概要>

- ・「企業内転勤」という在留資格を利用し、海外グループ会社の人材を受け入れ。（日本で勤務する期間は原則3年）
- ・海外人材を活用する部署がジョブディスクリプションを作成し、人事部が処遇条件とともに海外グループ会社に募集。
- ・海外グループ会社の社長が候補者を推薦し、募集部署が書類選考・Web面談を行い、転勤者を決定。
- ・募集は、年2回（3月・9月）毎年継続して実施予定。

# GHG排出量削減の取り組み



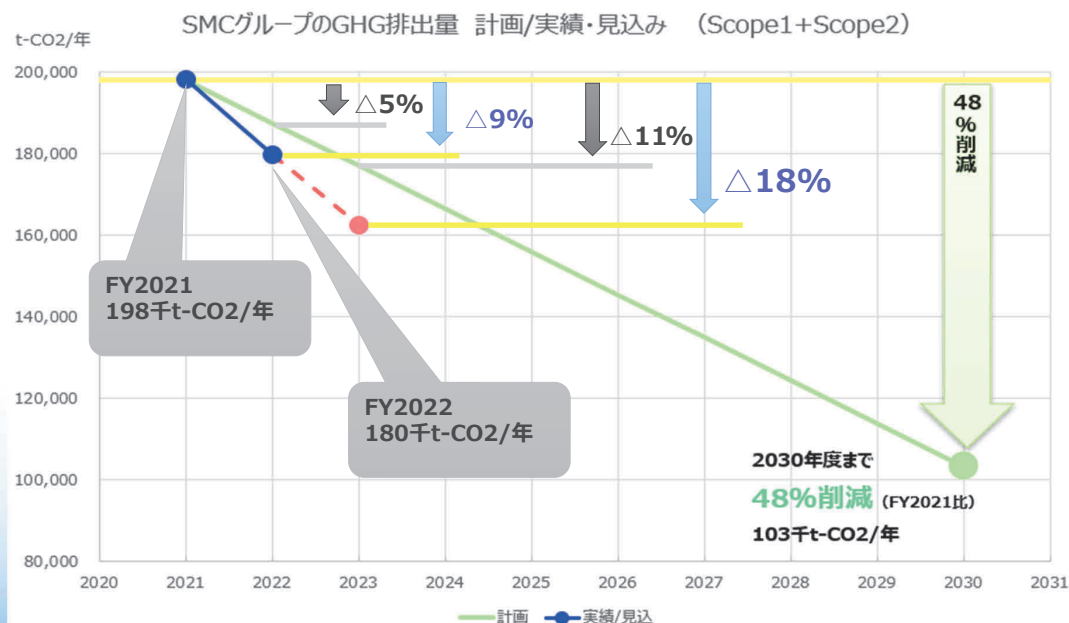
**中長期目標**  
 (2026年度に売上高1兆円、  
 その後も同ペースの増収を前提)

**中期**  
 2030年度までにGHG排出量  
 (Scope1+2)を48%削減

**長期**  
 2050年度までに  
 カーボンニュートラルを達成

**2022年度実績**  
 中期目標を上回るペースでの  
 削減を達成

**2023年度計画**  
 さらに大幅な削減を計画  
 ・グリーン電力の調達拡大  
 ・太陽光発電の利用促進  
 ・設備更新による省エネ化



## コーポレートガバナンスの変革



年度	主要な出来事	
2019	創業者である高田芳行が代表取締役を退任	
2020	「指名・報酬委員会」の設置	委員長：海津社外取締役
	取締役向け株式報酬制度の導入	役員退職慰労金を廃止
2021	高田芳樹が代表取締役社長に就任	
	社外取締役を2名から4名へ増員 初の女性取締役（社外）の選任	全取締役に占める社外取締役の比率：1/3以上
	「アドバイザリー・コミティ」の設置	主要な海外グループ会社4社と当社社長とで構成
	「サステナビリティ委員会」の設置	委員長：宮崎社外取締役
2022	初の女性「社内」取締役（外国籍）の選任	
2023	株式報酬制度の充実 取締役報酬に占める業績連動報酬・株式報酬の拡大	固定報酬・業績連動報酬・株式報酬 = 5 : 2 : 3
	会計監査人の変更	EY新日本有限責任監査法人へ変更



Supporting Automation



# 2024年3月期 第2四半期 決算説明資料

2023年11月15日

SMC株式会社

取締役執行役員経理部長 太田 昌宏

Supporting Automation



## 連結損益計算書推移

	22/2Q		23/2Q		前年同期比 (22/2Q vs 23/2Q)		23年度 業績予想		23年度 1Q単独		23年度 2Q単独		前四半期比 (23/1Q vs 23/2Q)	
	実績		実績		金額 率		金額 進捗率		金額 売上比		金額 売上比		金額 率	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	率	金額	進捗率	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	4,215		3,935		-279	-6.6%	8,070	48.8%	1,989		1,945		-43	-2.2%
売上原価	2,093	49.7%	2,057	52.3%	-36	-1.7%	4,050	50.8%	1,025	51.5%	1,031	53.0%	6	0.6%
売上総利益	2,121	50.3%	1,878	47.7%	-243	-11.5%	4,020	46.7%	964	48.5%	914	47.0%	-50	-5.2%
販売管理費	785	18.6%	827	21.0%	41	5.3%	1,690	48.9%	403	20.3%	423	21.8%	20	5.1%
営業利益	1,336	31.7%	1,051	26.7%	-285	-21.3%	2,330	45.1%	561	28.2%	490	25.2%	-70	-12.6%
経常利益	1,807	42.9%	1,346	34.2%	-460	-25.5%	2,530	53.2%	748	37.6%	598	30.8%	-149	-20.0%
当期純利益	1,330	31.6%	947	24.1%	-383	-28.8%	1,830	51.8%	521	26.2%	425	21.9%	-95	-18.3%
期中平均為替レート														
ドル	134.06		141.06		+7.00	5.2%	130.00		137.49		144.63		+7.14	5.2%
ユーロ	138.81		153.44		+14.63	10.5%	145.00		149.57		157.31		+7.74	5.2%
人民元	19.89		19.74		-0.15	-0.8%	19.00		19.56		19.93		+0.37	1.9%
減価償却費	121		150		29	23.8%	300	50.3%						
研究開発費	135		150		14	10.5%	300	50.0%						

## 23年度ガイダンス達成度

今期は半導体向け売上の下期回復を見込み、ガイダンスは売上ベースで上期48%・下期52%の配分。第2四半期迄の実績は、円安にも助けられ、売上高・経常利益・当期純利益のいずれも半期ガイダンスを達成。

	22年度 通期実績	23年度 通期 ガイダンス	23年度		23年度 上期実績	上期進捗率	下期計画 (差引)
			上期	下期			
売上高	8,247	8,070	3,870	4,200	3,935	101.7%	4,135
売上総利益	4,211	4,020	1,900	2,120	1,878	98.9%	2,142
営業利益	2,582	2,330	1,090	1,240	1,051	96.4%	1,279
経常利益	3,059	2,530	1,180	1,350	1,346	114.1%	1,184
当期利益	2,246	1,830	850	980	947	111.5%	883

(億円)

期中平均レート

ドル円	135.56	130.00
ユーロ円	141.05	145.00
人民元円	19.75	19.00

通期為替  
レート前提

	141.06	145.00
	153.44	154.00
	19.74	19.80

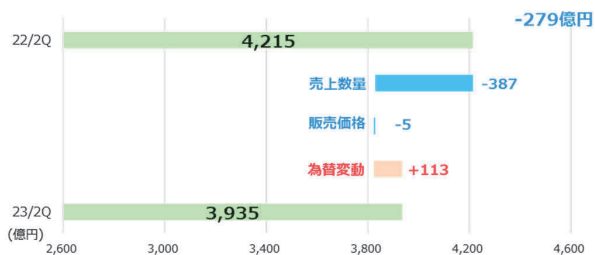
変更せず

変更

## 【FY22/2Q vs FY23/2Q】売上高・営業利益増減要因

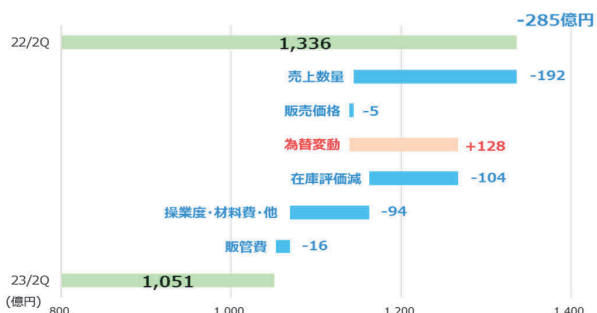
### ①売上高

(億円)



- < 売上数量 > 前年度比9%減少  
日本 -92 (-9%) 北米 -21 (-3%) 中華圏 -215 (-17%)  
他アジア -59 (-9%)
- < 販売価格 > 前年度比0.1%低下  
日本 +10、海外 -15 アジアが低下傾向にある
- < 為替変動 > 前年度比3%増加  
北米 (米ドル中心) +43  
欧州 (ユーロ中心) +46  
中華圏 (人民元中心) -4

### ②営業利益

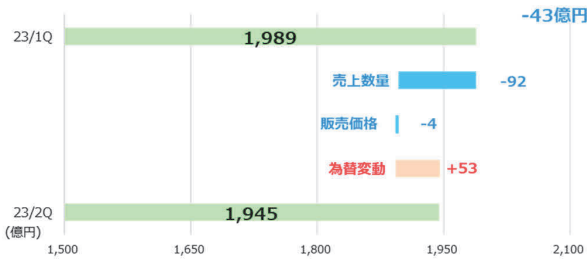


- < 為替変動 >  
・取引 (外貨輸出・仕入) 要因 +112  
・決算 (海外子会社P/L換算) 要因 +16
- < 在庫評価減 >  
在庫回転率低下、評価減増加
- < 操業度 >  
生産物量減少による操業度低下
- < 販管費 >  
減価償却費 -8、試験研究費 -6、旅費交通費 -5、人件費 -2、  
寄付金 +4

## 【FY23/1Q単独 vs FY23/2Q単独】売上高・営業利益増減要因

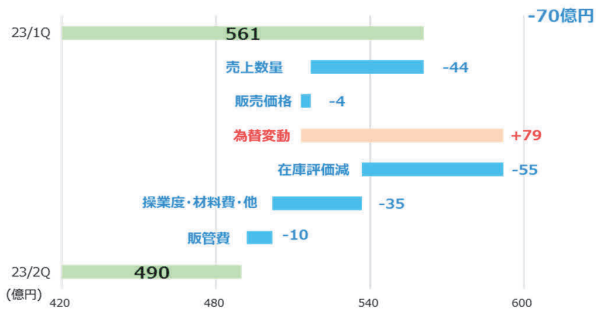
### ①売上高

(億円)



- < 売上数量 > 1Q比4%減少  
日本 -24 (-6%) 北米-20 (-6%) 欧州 -9 (-3%)  
中華圏 -51 (-10%) 他アジア +9 (+3%)
- < 販売価格 > 1Q比0.2%減少  
日本 -1、海外 -2 北米で微減
- < 為替変動 > 1Q比微増  
北米 (米ドル中心) +17  
欧州 (ユーロ中心) +11  
中華圏 (人民元中心) +9

### ②営業利益



- < 為替変動 >  
・取引 (外貨輸出・仕入) 要因 +71  
・決算 (海外子会社P/L換算) 要因 +7
- < 在庫評価減 >  
在庫回転率低下、評価減増加
- < 操業度 >  
生産物量減少による操業度低下
- < 販管費 >  
人件費 -3、減価償却費 -3、福利厚生費 -2、消耗品費 -2

## 【四半期】所在地別売上推移

売上割合	日本	北米	欧州	中国・香港・台湾	その他アジア
	22%	17%	18%	26%	15%
売上高 (億円)					
	FY22	FY23	FY22	FY23	FY22
	2Q 3Q 4Q 1Q 2Q	2Q 3Q 4Q 1Q 2Q	2Q 3Q 4Q 1Q 2Q	2Q 3Q 4Q 1Q 2Q	2Q 3Q 4Q 1Q 2Q
	458 476 434 436 410	323 309 326 335 329	330 338 384 356 359	626 590 513 529 485	318 303 272 287 309
業種別売上割合 <sup>*1</sup>					
	半導体電機 33%	半導体電機 16%	半導体電機 12%	半導体電機 45%	半導体電機 42%
	自動車 18%	自動車 22%	自動車 14%	自動車 23%	自動車 22%
	機械 10%	機械 7%	機械 14%	機械 10%	機械 13%
	食品 5%	食品 10%	食品 11%	食品 4%	食品 3%
	医薬 5%	医薬 8%	医薬 10%	医薬 5%	医薬 2%
	その他 29%	その他 37%	その他 39%	その他 13%	その他 18%
製造拠点	草加他、計6工場	(米国インディアナ)	(チェコ)	北京・天津	ハトム・シカゴ・ル・イト*
開発拠点	つくばみらい市	米国	イギリス・ドイツ	北京	-
為替感応度(1%) <sup>*2</sup>	-	USD 4.9億円	EUR 7.4億円	CNY 13.1億円	KRW 4.4億円

<sup>\*1</sup>当四半期より業種別受注割合から業種別売上割合に変更しております。

<sup>\*2</sup>為替の1%変動に伴う営業利益の変動額 約30億円

## 連結貸借対照表推移

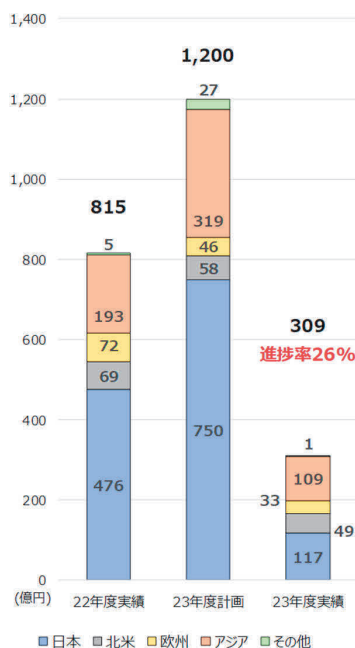
(億円)

	22年度	23/2Q	前年度末比増減	
資産	19,279	20,736	1,457	7.6%
流動資産	13,238	13,593	354	2.7%
(内 ①現預金)	(6,035)	(5,844)	(-191)	-3.2%
(内 営業債権)	(2,288)	(2,267)	(-20)	-0.9%
(内 ②有価証券)	(199)	(221)	(22)	11.0%
(内 棚卸資産)	(4,186)	(4,912)	(726)	17.4%
固定資産	6,040	7,143	1,102	18.3%
(内 ③市場価格のある投資有価証券)	(762)	(1,499)	(737)	96.8%
(内 ④保険積立金)	(1,439)	(1,485)	(46)	3.2%
*換金性のある資産 ①+②+③+④	8,436	9,050	613	7.3%
負債	2,256	2,305	49	2.2%
流動負債	1,888	1,846	-41	-2.2%
(内 営業債務)	(736)	(724)	(-11)	-1.5%
固定負債	367	458	91	24.8%
純資産	17,023	18,431	1,408	8.3%
自己資本比率	88.1%	88.7%	+0.6	
1株当たり純資産(円)	26,331	28,517	+2,186	
ROE	13.8%	5.4%	(*年間換算10.8%)	

(億円)

	22/4Q	23/2Q	前年度末比
棚卸資産合計	4,186	4,912	726
商品及び製品	1,652	1,951	298
仕掛品	313	344	30
原材料及び貯蔵品	2,219	2,616	396
為替の影響			180
在庫評価減の影響			-129
<b>実質増減</b>			<b>674</b>
期中平均月商倍率	6.1	7.5	1.4
期末月商倍率	5.6	7.7	2.1
期末為替レート			
ドル	133.54	149.58	+16.04
ユーロ	145.72	157.97	+12.25
人民元	19.42	20.46	+1.04

## 設備投資の状況



(単位: 億円)

		2023年度計画		23/2Q	
用途	地域	計画	案件	実績	案件
製造	国内	350	遠野工場 釜石工場 下妻工場	55	遠野工場 釜石工場 下妻工場
	海外	350	ベトナム製造 中国製造会社 SMC アメリカ SMC 韓国	125	ベトナム製造 中国製造会社 SMC アメリカ SMC 韓国
本社 開発 販売 物流	国内	400	JTC 新本社 東西ロジ	62	JTC 新本社 東西ロジ
	海外	100	SMC 中国 SMC オーストラリア SMC チェコ SMC アメリカ SMC ドイツ	68	SMC 中国 SMC オーストラリア SMC チェコ SMC アメリカ SMC ドイツ
合計		1,200		309	

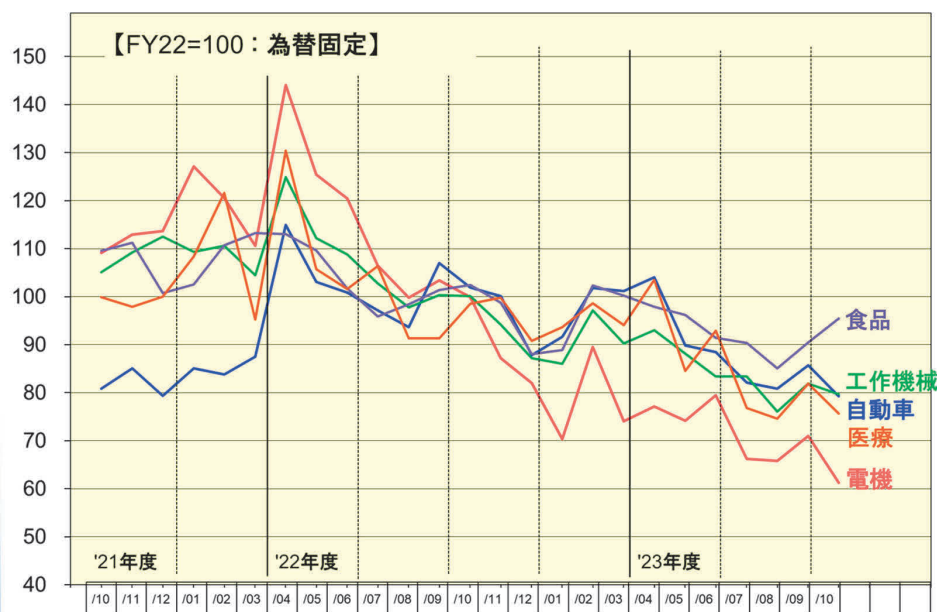
・ 第2四半期の設備投資予定額は301億円で、実質的な進捗率は103%

## 足元の受注動向（FY22=100）

	FY23	'23/1Q	'23/2Q	'23/10	10月の状況	
連 結	電機	71	77	68	61	北米を除くすべての地域で減少
	自動車	87	94	83	79	日本は横ばい、アメリカは減少
	工作機械	84	88	80	80	日本は減少、アメリカ・韓国が増加
	食品	92	95	89	95	日本・中国が増加
	医療	84	93	78	76	日本は増加、アメリカ・中国が減少
	その他	90	95	85	90	
日本	73	76	72	67	電機が減少、自動車は下げ止まり	
北米	81	87	77	75	電機は増加、自動車は減少	
欧州	84	91	78	80	自動車が増加、工作機械は弱含み	
中華圏	81	89	74	77	電機・自動車が下げ止まり	
その他アジア	93	96	93	88	電機・自動車が減少傾向	
連結	82	88	78	77		

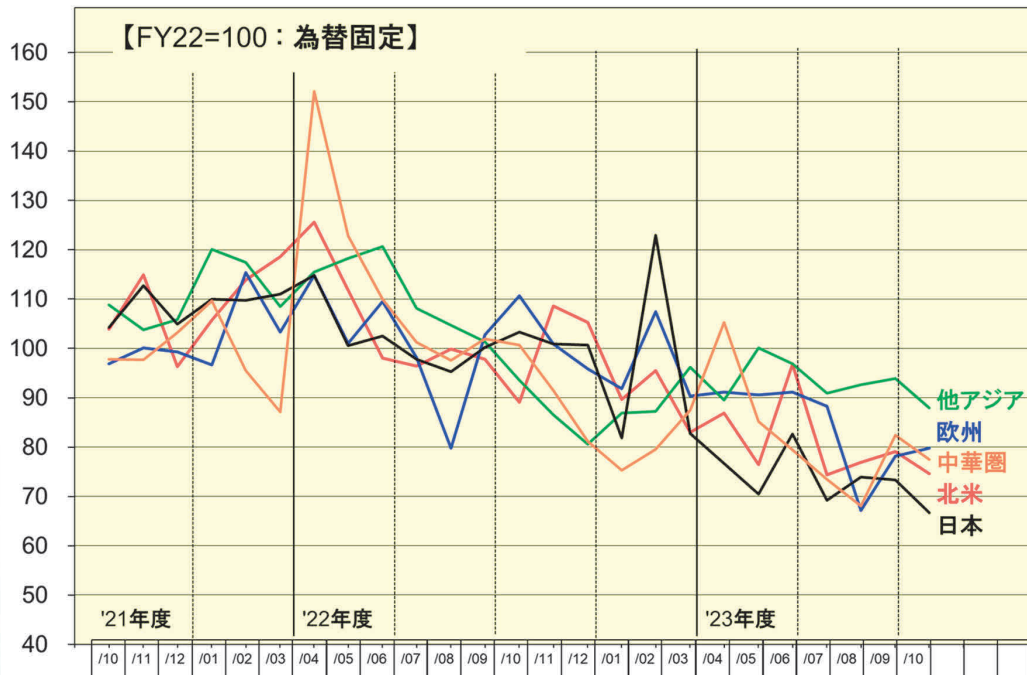
※FY22の二次電池のEV電池分を「電機」から「自動車」カテゴリーに移動した事により'23/1Q」の業種別指数を更新。

## 受注推移（業種別）



※FY22の二次電池のEV電池分を「電機」から「自動車」カテゴリーに移動した事により'23/1Q」の業種別指数を更新。

## 受注推移（地域別）



## ご参考：前年度までのシェアの動向（当社予想値）

	'18	'19	'20	'21	'22
Rate(¥/\$)	(110.92)	(108.71)	(106.12)	(112.39)	(135.56)
<b>国内</b>	65	65	65	63	62
<b>北米</b>	26	26	27	32	33
<b>欧州</b>	22	22	24	23	23
<b>アジア/オセアニア</b>	47	47	41	43	40
			中華圏		
			⇨ その他アジア		
<b>世界計</b>	37	37	38	39	37

※中華圏：中国、台湾、香港

### 【世界シェア減少の主な要因】

非空圧機器の販売への注力や、販売先の多角化を目指し、各子会社において、より広いマーケットを対象に営業活動をしている。このため、各国でのシェアを計算する際の分母の算出方法をそれぞれに見直し、対象マーケットの拡大分、分母が増加したことから、シェアの計数も減少したものの。

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

そのため、実際の業績はさまざまな複合的要素により、記載された見通しとは大きく異なる結果となり得ることを、予めご承知おきください。

ご清聴ありがとうございました。

## Supporting Automation

